

大地の声

2024 February

2

JA CHIBATOUKATSU



野田市木間ヶ瀬で水稲と大麦を栽培する山田政宏さんは、持続的な農業を実現するために効率化に取り組んでいます。〈芽依ちゃん(左)、枇奈ちゃん(右)、樹くんと〉

詳しくは16ページをご覧ください

1月より全支店で信用・共済専任担当から
双方の業務に携わる複合渉外担当に代わりまして
お気軽にお声かけ下さい!

複合渉外担当者紹介



東部支店
濁川 潤一



うめさと支店
富永 雅之



東部支店
染谷 倫太郎



土支店
田中 智也



柏支店
湯下 英和



関宿支店
岩井 和弘



七福支店
國府田 裕



うめさと支店
芥川 和志



東部支店
越前 貢之



土支店
久保田 和樹



柏支店
酒井 美穂



関宿支店
笠見 慎吾



川間支店
岡田 春真



福田支店
渡邊 正俊



東部支店
吉田 康希



富勢支店
仲野 勇太



柏支店
神長 信哉



中根支店
平井 智



木間ヶ瀬支店
深井 健太郎



福田支店
佐藤 晃稀



東部支店
野口 和希



富勢支店
深野 公与



西船支店
池田 太一



中根支店
茂木 俊孝



木間ヶ瀬支店
中井 真央



旭支店
桐田 潤一



風早支店
現王園 琢磨



西船支店
吉田 健人



川間駅前支店
逆井 一樹



二川支店
岩井 久仁



旭支店
海老原 弘樹



風早支店
青木 章悟



行田支店
高松 侑豊



柏支店
秋田 直輝



二川支店
松岡 大輔



七福支店
池澤 暁

ゴルフ大会を開催しました—JA、柏地区運営委員会、東部地区運営委員会



まだ暖かさが残る11月、柏地区運営委員会が14日にサミットゴルフクラブ（茨城県石岡市）で、東部地区運営委員会が28日に取手国際ゴルフ倶楽部（茨城県取手市）で、それぞれチャリティーゴルフ大会を開催しました。柏地区には108名、東部地区には87名の方が参加し、皆さん日頃の練習の成果を発揮されました。

また、12月13日にはJAちば東葛全地区を対象としたチャリティーゴルフ大会を千葉カントリークラブ川間コースで開催し、128名の方が参加しました。

今回も、皆さまからお預かりしました参加費の一部は、柏・東部地区運営委員会からJA共済連千葉を通して交通遺児支援へ、JAちば東葛全地区大会からは船橋市へ寄付いたしました。

なお、各大会の上位は次の方々です。

【柏地区】

優勝・染谷健市さん、準優勝・伊藤 茂さん
第3位・小川智久さん

【東部地区】

優勝・島村 聡さん、準優勝・鈴木重和さん
第3位・山田寿彦さん

【全地区】

優勝・小沼和夫さん、準優勝・石塚直行さん
第3位・古橋柳一さん



柏地区



東部地区



全地区

次年度生産に備えて—柏市果樹組合



講習の様子

柏市果樹組合は12月4日、市内の渡来斉園のほ場で梨の冬季整枝剪定講習会を行い、25名が参加しました。

東葛飾農業事務所の宮沢裕章氏が、品種の特徴や若木の取り扱いなどを踏まえた剪定のポイントを説明しました。また、火傷病の影響で昨年からの花粉の輸入が中止されたことを受け、現状と今後の対策や花粉の採取方法など、輸入花粉に頼らない着果対策について話がされました。

組合員らは環境変化に対応するため、講習会を通して技術の向上と情報共有を行い、令和6年産梨の品質向上と収量の安定・増加を目指します。

次世代に繋ぐ農業—JA、JA 共済連千葉



高橋組合長（左）と金彌さん

当JAとJA共済連千葉は12月13日に千葉県立清水高等学校を訪問し、農業機械贈呈式に出席しました。この日は当JAから高橋一雄組合長、大塚幸夫常務、JA共済連千葉から林秀一副部長が参加。同校食品科学科1～3学年の生徒らが見守る中、高橋組合長から金彌^{かなや}瑠奈さんに目録が手渡されました。

金彌さんから「使用していたトラクターが古くなっていましたので、大変感謝しています。とても効率化できると思うので、今後の実習に励みたい。」とお礼の言葉をいただきました。

今回の寄贈は、JA共済連の地域貢献活動・農業振興積立金の一部を活用し、農業科・農業に関する学科を設ける県内の県立高校10校に贈られました。同校では、食品科学科1学年時に栽培実習を行っており、今後、この実習で寄贈したトラクターが使用される予定です。

市場を交えて中間検討会を実施—JAちば東葛ふたば青果物出荷連合会かぶ部会



JAちば東葛ふたば青果物出荷連合会かぶ部会は1月6日、土支店会議室で小かぶの中間検討会を開催し、生産者14名のほか、JA全農ちば、東葛飾農業事務所、市場4社が参加しました。

露地栽培からハウス栽培へ切り替わるタイミングで行う中間検討会では、JA全農ちばから9月以降の入荷量や単価の傾向、他産地の状況や見通しなどの説明があったあと、ハウスかぶの現品確認を行いました。



市場関係者と現品確認の様子

岡田英夫部会長は「市場と率直な意見交換を行い、品質を保った出荷に繋げて欲しい。」と挨拶しました。

同部会では4月下旬頃まで出荷が続きます。

農機展を開催—県北西JA広域農機センター



たくさんの方にご来場いただきました

県北西JA広域農機センターは1月20日、野田地区経済センターで農業機械展示会を行いました。

3回目となる今回はメーカー11社が出展し、トラクターやコンバインなどの大型機械から光選別機、噴霧器やチェーンソーなど、多岐にわたる農機・農具が揃いました。さらに、展示以外にもりんごの詰め放題や抽選会、甘酒の配布など、皆さんに楽しんでいただける内容で多くの方にご来場いただきました。

来場者からも「展示会は実際に見て触れて相談出来るから参考になる」と感想がありました。

可愛く仕上がりました—JA ちば東葛柏地区女性部



柏地区女性部は12月5日、柏支店集出荷場でガーデニング講習会を行い、28名が参加しました。

今回もエル・パテオの藪崎崇仁さんを講師に迎えて「組み合わせで作る！イチゴのコンビネーションバスケット」と題し、ボールプランターと鉢3つを使った二階建て方式の鉢植えに挑戦しました。ビオラ、シクラメン、キンセンカ、バコパ、アリッサムといった今が見頃の花やイチゴと相性の良い花を使用し、バランス良く仕上げました。

今回は上級者向けの寄せ植えでしたが、皆さん毎年受講していることもあり、丁寧な中にも個性が光る作品が出来上がりました。



綺麗に仕上がりました

「もしも」に備えて—JA ちば東葛野田地区女性部



消火訓練を行う参加者

野田地区女性部は12月12日に野田地区多目的ホールで女性部短期大学第5回講座を行い、15名が参加しました。

講座では、野田消防署北分署の指導員7名にご協力いただき「普通救命講習・通報訓練（救急、火災）・消火訓練」を行いました。心肺蘇生法やAEDの使用法、通報時に必要な情報の確認、消火器の使用法など、いつやってくるかわからない緊急事態に備えて皆さん真剣に受講しました。また、普段見ることのない消防車や救急車についても説明いただきました。

参加者らは「緊急事態が起こらないことが一番だけど、どれも必要な知識。たいへん勉強になりました。」と話し合っていました。

初春を感じて—JA ちば東葛西船地区女性部



西船地区女性部は12月20日、西船地区多目的ホールで女性部短期大学第5回講座を行い、13名が参加しました。

この日は「お正月の生け花」と題し、初春らしい情緒豊かな表現に挑戦しました。今回も（株）花源の田島直人さん指導のもと、若松、ピンポンマム（キク科）、センリョウをバランスよく配置し、水引で一気にお正月の華やかさを演出しました。

毎年参加されている方も多く、講師からも「皆さん手際よく綺麗に仕上げている、とても上手です」とお言葉を頂きました。



お正月の雰囲気になりました

子ども達に笑顔を！—JA ちば東葛西船地区女性部



サンタになりました！

西船地区女性部は12月23日、子ども達に本をプレゼントする活動「ブックサンタ」へ児童書を寄付しました。

この日、金子しのぶ部長ら3名がブックサンタ参加書店のくまざわ書店船橋店を訪れ、厳選した児童書10冊を購入。書店へ寄付をしました。

今回寄付した本は、西船地区農業まつりで豚汁を販売した際の収益の一部を充てて購入しました。金子しのぶ部長は「明るい未来のためには、一人でも多くの子どもを笑顔にすることが大切。」と話しました。

同女性部では一昨々年からSDGsの知識を深め実践しており、今回は子ども達の孤立や教育環境の格差解消の一助となることを願い寄付をしました。

懸賞金品付定期貯金の当選番号が決まりました

令和5年11月1日から12月29日にかけてお取り扱いいたしました「JAちば東葛冬得キャンペーン2023懸賞金品付定期貯金」の抽選会を、1月19日に本店会議室で行いました。

抽選会では、農林中央金庫千葉支店の浅野卓哉主任立会いのもと、3名の職員が厳正な抽選を行いました。当選番号は次のとおりです。



左より 風早支店・稲吉職員、柏こがぶ出張所・阿比留職員、東部支店・小笠原職員

懸賞金品付定期貯金当選番号

びっくり賞	美味しんぼ賞	ラッキー賞	ハッピー賞	スウィート賞
農協観光 北のグルメセット	JAみのり 黒田庄和牛 コースすきやき	喜多方ラーメン セット	明方ハム ギフトセット	AGF クッキータイム セット
「各組共通」当選番号	「各組共通」当選番号	「各組共通」当選番号	「各組共通」当選番号	「各組共通」当選番号
10091	10485	10163	10270	10499
				10144

わたしたちの



SDGs プロジェクトチーム活動報告

当JAのSDGsプロジェクトチームが、新たな取り組みとして「エコキャップ運動」を始めました！職員のみならず来店された皆さんなど、多くの方に参加いただけるよう、1月から各支店・センターに回収ボックスを設けました。皆さんからお預かりしたキャップは、NPO 法人エコキャップ推進協会へ提供して再資源化されます。

プラスチックゴミの再資源化は、焼却時のCO₂削減やマイクロプラスチックの発生抑制など、環境改善に繋がることは知られていると思います。この協会では、環境改善以外に製品化までの分別や破砕などの作業による雇用創出や、再資源化で得た売却益で医療支援活動・子ども支援活動を行うなど、多様な取り組みを行っています。

SDGsプロジェクトチームでは「身近で皆が出来ること」を考え、この活動を通してSDGsの目標「11. 住み続けられるまちづくりを」「12. つくる責任、つかう責任」「14. 海の豊かさを守ろう」の目標達成を目指します。

回収場所については、各支店・センター窓口にてお問合せ下さい。
 分別時のケガを防ぐため、ペットボトルのキャップのみの回収となります。
 缶、金属類、ビン、洗剤等のキャップはお預かりできません。



営農情報

【水稲種子消毒とその管理について】



東部地区経済センター



佐々木 彬

種子伝染性病害である「ばか苗病」「いもち病」「細菌性苗立枯病」などの発生を防止するために、**種子消毒・培土消毒・苗箱消毒**をしっかりと行いましょう。

1. 種子消毒

薬剤消毒 (ヘルシードTフロアブル・テクリードCフロアブル)

希釈倍率：200倍

浸漬時間：24時間

使用方法：浸種前

水温：10～15℃

希釈濃度	種籾量	4 kg	10～12 kg	20 kg	40 kg
200 倍	薬 量	40 ml	100 ml	200 ml	400 ml
	水 量	8 l	20 l	40 l	80 l

※種子袋はゆすりながら薬液に浸し浸漬中に種子を2・3回攪拌する。

種子全体が薬液に浸からないと効果にムラが出る可能性があるため、**種子が水面から出ないように注意**

消毒後は、半日～1日程度陰干し(風乾)し薬剤付着率を高める。(ヘルシードT剤は必ず)

温湯消毒…温湯による種子消毒

水温：60℃、消毒時間：10分(モチは6分)

温湯消毒



冷水で冷却



脱水



風乾

※風乾は日陰で十分に乾燥(水分15%以下)させる。風乾後は室内冷暗所(15℃以下)で保存する。



2. 培土消毒

フタバロンA粉剤 500g

覆土の量	覆土 1 l (苗箱 1 枚)	覆土 20 l (苗箱 20 枚)	覆土 100 l (苗箱 100 枚)
薬 量	5 g	100 g	500 g

※播種前に床土へ灌水をたっぷり行いましょう。

薬剤は、播種7日前～播種直前に「**覆土**」のみに均等になるよう、混和しましょう。播種後の灌水は行いません。

床土の灌水と、覆土が少ないと**根上り**しやすくなるので**注意!**

培土 1 袋で作れる苗箱の目安

合成培土(粒状の培土) : 容量20kg 約7～8枚分

平成培土(細粒を含む粒状の培土) : 容量20kg 約6～7枚分



※適用病害などは薬剤によって異なるため、必ずラベルをご確認ください。

※その他営農相談については、各地区経済センターにお問い合わせください。

みどりの食料システム戦略

農林水産省HP
QRコード



～食料・農林水産業の生産力向上と持続性の両立をイノベーションで実現～

環境負荷低減を目指す農林水産省の政策方針「みどりの食料システム戦略」をご存知ですか？我が国で起こっている大規模自然災害、世界で問題になっている地球温暖化、生産者の減少や高齢化など農林水産業に関わる政策課題は山積しています。諸外国は、環境や健康に関する戦略を組み合わせながら持続可能な食料システムを構築し、将来に備える動きを見せています。我が国も、食料・農林水産業の生産力向上と持続性の両立を実現するため新たな考え方や技術を取り入れ、新たな価値を創造し、変革をもたらす取組として出した政策が「みどりの食料システム戦略」です。

2050年までに目指す姿

農林水産業のCO2排出量ゼロ化の実現



低リスク農薬への転換、総合的な病害虫管理体系の確立・普及に加え、ネオニコチノイド系を含む従来の殺虫剤に代わる新規農薬等の開発により化学農薬の使用量(リスク換算)を…

50%低減

輸入原料や化石燃料を原料とした化学肥料の使用量を…



30%低減

耕地面積に占める有機農業の取組面積の割合を…



25%に拡大
100万 ha

※一部の取組方向は省略



期待される効果



経済

持続的な産業基盤の構築

- 輸入から国内生産への転換(肥料・飼料・原料調達)
- 国産品の評価向上による輸出拡大
- 新技術を活かした多様な働き方、生産者のすそ野の拡大

社会

国民の豊かな食生活・地域の雇用・所得増大

- 生産者・消費者が連携した健康的な日本型食生活
- 地域資源を活かした地域経済循環
- 多様な人々が共生する地域社会

環境

将来にわたり安心して暮らせる地球環境の継承

- 環境と調和した食料・農林水産業
- 化学農薬・化学肥料の抑制によるコスト低減
- 化石燃料からの切替によるカーボンニュートラルへの貢献

※農林水産省「みどりの食料システム戦略について」説明資料より抜粋

「みどりの食料システム戦略」の新法が4月22日の国会で可決！この食料システムを進めるうえで、生産者だけに負担が集中しないよう配慮することを含めた附帯決議がなされました。

※下線は全てJA千葉中央会によるものです。

環境と調和のとれた食料システムについては、農林漁業者、食品事業者、消費者等の幅広い関係者の理解の下、これらの者が連携することにより、その確立が図られるものであることに鑑み、国が必要な施策の検討及び実施を行うに当たっては、農林漁業者等、特定の者のみに過度な負担をもたらすことがないよう配慮するとともに、農林水産物・食品の付加価値を高め、農林漁業者をはじめとする関係者の経営の発展、農山漁村の活性化に資するよう努めること。(※以下省略 第208回国会 参議院農林水産委員会(令和4年4月21日)附帯決議より一部抜粋)

「みどりの食料システム戦略」の実現に向けて

「みどりの食料システム戦略」とは、環境負荷低減を目指す、農林水産省の政策方針です。そのなかで、2050年までに目指す姿の一つとして「化学肥料の使用量を30%低減」を掲げています。

J A全農ちばは、「みどりの食料システム戦略」の実現に向け、次のように取り組んでいます。

●これまでの取り組み

土づくり資材として、鶏糞等の堆肥のほか、鶏糞焼灰入り肥料や、堆肥と普通肥料がひとつになった有機肥料「エコレット」等、国内地域資源（豚ふん堆肥等）を使った有機肥料の取り扱いをすすめており、施肥コストの削減に取り組んでまいりました。



みどりの食料システム戦略
(農林水産省ホームページ内)

詳細はこちら



●2023年11月から牛ふん堆肥を使った混合堆肥複合肥料の出荷を開始しています



千葉県耕畜
連携肥料

J Aグループ千葉オリジナル肥料
「ちばの恵み ぎゅ〜っと885」



- ・保証成分 チッ素8、リン酸8、カリ5
- ・容量 20kg
- ・用途 主に園芸品目向け（汎用）
- ・形状 粒状のため、機械施肥による省力散布が可能
- ・特長 県産の牛ふん堆肥を40%使用した混合堆肥複合肥料

詳しい使い方は、最寄りのJ Aまでお問い合わせください

●牛ふんを使うことのメリット

牛ふん堆肥は、鶏ふんや豚ふん堆肥よりも繊維質が多く、土づくりに役立ちます。「ちばの恵み ぎゅ〜っと885」は牛ふん堆肥と化成肥料を一粒化しているので、化成肥料よりもゆっくりと長く効き、連用することで地力および土壌の物理性向上と、土壌中の微生物層の改善が期待できます。また、製造時に火力乾燥しているため雑草種子や病原菌などの混入の心配もありません。

●畜産酪農家の抱える課題の解決へ

「ちばの恵み ぎゅ〜っと885」の商品化に向けた良質な牛ふん堆肥の確保のため、畜産酪農家を巡回し、課題となっていた牛ふん処理の改善をすすめ、肥料原料とすることで副産物収入につなげました。

●J Aグループ千葉が目指す社会への貢献

・国内資源の活用による供給の安定化

肥料原料の大半を輸入している我が国において、堆肥などの国内資源を有効活用することで、国際情勢に左右されにくい肥料の安定供給に貢献します。

・地域循環型農業の構築と化学肥料の削減

耕畜連携による千葉県産牛ふん堆肥の活用により資源循環型農業を構築し、価格の安定と環境負荷軽減につなげます。

